

分 類：臨床医学 III
授 業 科 目 名：精神 (Psychiatry)
対 象 学 年：4 年次 必修
時間割コード：71633011
開 設 学 期 等：第 1 週～第 6 週
単 位 数：2

1. 主任教員

三島 和夫 (教授、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

2. 担当教員

三島 和夫 (教授、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
竹島 正浩 (准教授、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
伊藤 結生 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
吉沢 和久 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
馬越 秋瀬 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
小笠原正弥 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
工藤 瑞樹 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
入中 啓輔 (非常勤講師、緩和ケアセンター 特任助教、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
渡邊真由美 (、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

精神障害は児童思春期から老年期に至る全てのライフステージにおいて発症しうる、心理-社会-生物学的疾患である。脳の機能障害や遺伝子異常などの生物学的要因だけではなく、心理的要因や社会的要因が相互に作用して発症する。精神障害の治療においても薬物療法やニューロモデュレーションなどの生物学的介入のほか、精神療法や精神分析などの心理的介入や、作業療法や認知リハビリテーションなどの社会療法が有効である。そのため、精神障害の患者の診療を行う際には生物・心理・社会的要因について多面的に評価を行い、適切な治療介入を行うことが重要である。

本講義では様々な精神障害の病態生理、疫学、診断、治療 (薬物療法、心理療法、修正電気けいれん療法など)、予防、医療行動科学、EBM を学習する。加えて、総合的に患者をみる姿勢、つまり精神障害そのものだけではなく患者の抱える問題を包括的、全人的に捉えた上で、個々の患者の心理社会的背景やニーズに応じて柔軟に診療を行う姿勢の重要性についても学ぶ。本講義ではコミュニケーション能力についても学習する。なぜなら全人的医療を行う上で、コミュニケーション能力は重要であり、良好な医師－患者間の治療関係を確立するだけではなく、多職種連携において医師がチーム医療の一員として他の職種と協調し、良好な関係を構築するために必要なスキルだからである。精神障害患者は理解力や判断力が低下していることがあるため、日本では患者の人権や健康を守るために様々な法律や医療制度、福祉制度が定められている。この講義ではこれらについての知識を習得する。その他、リサーチマインドや問題解決能力、自己研鑽・生涯学習のため、オンラインでの文献検索など ICT 教育も行う。(1-1、2-1～2-3、2-5～2-7、3-1～3-4、3-7、4-1～4-4、4-7～4-8、5-1～5-3、6-1)

2. 概要 (学修目標)

以下の精神疾患の概念と診断、治療に関する基本的知識を習得する。

- (1) 患者－医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を説明できる。(1-2、2-1～2-3)
- (2) 診察・検査を通じて精神障害の診断・治療の流れを理解できる。(4-1～4-4)
- (3) 精神障害の診断基準である DSM-5 や ICD-10、睡眠障害国際分類について説明できる。(3-3)
- (4) 精神保健福祉法に基づく入院形態の区分と適応について理解できる。(3-7)
- (5) 以下の精神疾患の主要症状、診断、治療について理解できる。(3-2～3-3)

a. 統合失調症 b. うつ病 c. 双極性障害 (躁うつ病) d. 症状精神病 e. 認知症 f. 物質使用障害 g. 不安障害群と心的外傷及びストレス因関連障害群 h. 身体症状症及び関連症群、食行動障害及び摂食障害群 i. 睡眠-覚醒障害 j. 解離性障害 k. パーソナリティ障害 l. 知的能力障害 m. 自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動障害、運動障害群

(6) 精神療法 (心理社会的治療法) と薬物療法を主とした身体療法について、適応、方法、問題点について理解できる。(3-3、4-3)

(7) 睡眠脳波や睡眠潜時反復検査などを含む脳波検査について理解できる。(3-2～3-3)

(8) 精神科医療の法と倫理に関する必須項目 (精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、心神喪失者等医療観察法、インフォームド・コンセント、共同意思決定) について習得する。(1-2、2-1、2-3、2-7、3-7)

(9) コンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。(2-4～2-7、4-7)

(10) 精神科医にならない場合にも必要な精神科領域の診療能力について習得し、必要に応じて精神科へコンサルテーションする技法について理解する。(3-3、4-1～4-3、4-7)

(11) 本領域が関連するプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について説明・実践できる。(1-1～1-2、3-5、3-7、4-4)

4. 教科書・参考書

- ・標準精神医学 (尾崎紀夫 他編 医学書院)
- ・カプラン臨床精神医学テキスト (井上令一 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル社)
- ・DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル (高橋三郎、尾崎紀夫 他訳 医学書院)
- ・ICD-10 精神及び行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン (融 道男 他訳 医学書院)
- ・ICD-11 「精神、行動、神経発達 of 疾患」分類と病名の解説シリーズ (日本精神神経学会)

https://www.jspn.or.jp/modules/advocacy/index.php?content_id=90

5. 成績評価の方法

統一試験の成績および授業への出席率により評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・指定教科書は事前に指示するので、講義初日までに用意し、予習して受講すること。
- ・指定教科書に授業の重要ポイントを記載するなどして学修すると、講義後の復習に役立つ。
- ・配布された資料を繰り返し復習すること。
- ・担当教員の予定などにより、講義内容、講義時間を若干変更する場合がある。
- ・疑問点はいつでも担当教員に質問することができる。

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
1	4月7日 (月)	5-6 時限	講義	テーマ：精神疾患の概念と精神医療 精神疾患の概念、精神医療の歴史、今後の課題について理解し、説明できる。精神疾患患者が虐げられてきた歴史やその背景にある偏見、社会状況を学ぶ。脳科学の発展とともに精神現象や精神疾患に関する理解、診断学、治療学がどのように変遷したか理解する。国の医療計画で5疾病の一つに位置づけられる現代の精神医療の状況、自殺や長期入院、入院医療から在宅医療への転換などの課題について理解する。(1-1～1-2、3-5、3-7)	三島 和夫	第二病棟 2階多目的室
2	4月7日 (月)	7-8 時限	講義	テーマ：精神症候学 1 患者に生じている異常体験を心理学的所見として取り出し、診断のために再構成する精神症候学について理解し、説明できる。精神症状の基本スペクトラムである、自我意識、人格・性格、知覚、思考、感情、意思・欲動、記憶、知能について理解し、精神疾患の症候を正しく記載できる。各精神症候を呈しうる代表的な精神疾患を説明できる。(3-2～3-3、4-6)	三島 和夫	第二病棟 2階多目的室
3	4月7日 (月)	9-10 時限	講義	テーマ：精神症候学 2 患者に生じている異常体験を心理学的所見として取り出し、診断のために再構成する精神症候学について理解し、説明できる。精神症状の基本スペクトラムである、自我意識、人格・性格、知覚、思考、感情、意思・欲動、記憶、知能について理解し、精神疾患の症候を正しく記載できる。各精神症候を呈しうる代表的な精神疾患を説明できる。(3-2～3-3、4-6)	三島 和夫	第二病棟 2階多目的室
4	4月10日 (木)	5-6 時限	講義	テーマ：精神症候学 3 患者に生じている異常体験を心理学的所見として取り出し、診断のために再構成する精神症候学について理解し、説明できる。精神症状の基本スペクトラムである、自我意識、人格・性格、知覚、思考、感情、意思・欲動、記憶、知能について理解し、精神疾患の症候を正しく記載できる。各精神症候を呈しうる代表的な精神疾患を説明できる。(3-2～3-3、4-6)	三島 和夫	第二病棟 2階多目的室
5	4月10日 (木)	7-8 時限	講義	テーマ：公衆衛生・精神保健、地域精神医療、精神保健福祉法 公衆衛生における予防の概念（一次予防、二次予防、三次予防）や日本の健康施策、精神疾患の疫学、精神保健、地域での精神医療および公衆衛生上の課題について理解し、説明できる。(3-4、3-7) 精神保健福祉法の目的、定められた経緯や歴史的背景、精神保健福祉法で定められた入院形態（任意入院、医療保護入院、応急入院、措置入院、緊急措置入院）や行動制限（隔離、身体的拘束）、人権を守る枠組み（精神医療審査会）を説明できる。(1-1、3-5、3-7、4-3)	伊藤 結生	第二病棟 2階多目的室

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
6	4月10日 (木)	9-10 時限	講義	テーマ：精神科面接・構造化面接法／家族・生活歴・社会機能評価の重要性/認知行動療法／精神分析学／精神療法 患者-医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を理解する。(2-1～2-2、2-7、4-1～4-2) また言語表現のみならず非言語表現を用いて、困難な状況下における患者・家族とのコミュニケーションを大切にしておける患者-医師との良好な信頼関係の構築について説明できる。(2-3、2-7、4-1～4-2) 家族歴、生活歴、社会機能の評価の重要性について説明できる。(4-1、4-8) 他職種とのコミュニケーションも大切にし、精神科臨床がチーム医療であること、それに伴うチームの組織化とリーダーシップの遂行が重要であることを概説できる。(2-6、4-7～4-8) 精神療法、心理療法（精神分析療法、来談者中心療法、認知行動療法）の分類、基本理論と適用疾患、有効性について説明できる。(3-3、3-6) 特に認知行動療法については、認知行動論的ストレスマネジメント、不眠症に対する認知行動療法（CBT-I）、アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）のそれぞれについて、理論と構成、実施上の留意点を概説することができる。(2-1～2-3)	伊藤 結生	第二病棟 2 階多目的室
7	4月14日 (月)	5-6 時限	講義	テーマ：精神科診断学 外因・内因・心因論的診断体系から現在主流となった操作型診断基準への精神科診断分類法の変遷を学び、その利点と欠点を説明できる。代表的な操作型診断基準である精神障害の診断・統計マニュアル第5版(DSM-5)および国際疾病分類の第11回改訂版(ICD-11)における精神疾患の分類構造を理解し、診断手法を説明できる。(3-3～3-4、4-1、4-6)	三島 和夫	第二病棟 2 階多目的室
8	4月14日 (月)	7-8 時限	講義	テーマ：統合失調症 1 統合失調症および関連障害群について、症候（陰性症状、陽性症状）、病型、診断、疫学的事項、遺伝要因、病態仮説、治療（薬物療法、電気けいれん療法、精神療法、リハビリテーション等のその他の治療）を説明できる。ケーススタディを通じて、統合失調症の診断と治療の経過について理解する。(3-1～3-4、4-1～4-4)	三島 和夫	第二病棟 2 階多目的室
9	4月14日 (月)	9-10 時限	講義	テーマ：統合失調症 2 統合失調症および関連障害群について、症候（陰性症状、陽性症状）、病型、診断、疫学的事項、遺伝要因、病態仮説、治療（薬物療法、電気けいれん療法、精神療法、リハビリテーション等のその他の治療）を説明できる。ケーススタディを通じて、統合失調症の診断と治療の経過について理解する。(3-1～3-4、4-1～4-4)	三島 和夫	第二病棟 2 階多目的室

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
10	4月17日 (木)	5-6 時限	講義	テーマ：神経発達症 1 児童思春期の精神発達と診察上の留意点について概説できる。(2-1～2-3) 児童思春期の心理的発達の障害(アスペルガー症候群・レット症候群を含む広汎性発達障害、学習障害)と行動および情緒の障害(注意欠如・多動障害、素行障害、愛着障害、分離不安障害、社交不安障害、選択性緘黙、チック障害)について、症候、診断、疫学的事項、治療(精神療法、薬物療法)を説明できる。(3-1～3-4、4-1～4-4) 児童思春期の診療における多職種、地域との連携について概説できる。(2-6、4-8)	馬越 秋瀬	第二病棟 2 階多目的室
11	4月17日 (木)	7-8 時限	講義	テーマ：神経発達症 2 児童思春期の精神発達と診察上の留意点について概説できる。(2-1～2-3) 児童思春期の心理的発達の障害(アスペルガー症候群・レット症候群を含む広汎性発達障害、学習障害)と行動および情緒の障害(注意欠如・多動障害、素行障害、愛着障害、分離不安障害、社交不安障害、選択性緘黙、チック障害)について、症候、診断、疫学的事項、治療(精神療法、薬物療法)を説明できる。(3-1～3-4、4-1～4-4) 児童思春期の診療における多職種、地域との連携について概説できる。(2-6、4-8)	馬越 秋瀬	第二病棟 2 階多目的室
12	4月17日 (木)	9-10 時限	講義	テーマ：心的外傷およびストレス因関連障害 (PTSD・適応障害) 心的外傷およびストレス因関連障害 (PTSD・適応障害)について、症候、診断、疫学的事項、治療(精神療法、薬物療法)、医療行動科学を説明できる。(2-1、2-3～2-4、3-1～3-4、3-6、4-1～4-4)	馬越 秋瀬	第二病棟 2 階多目的室
13	4月21日 (月)	5-6 時限	講義	テーマ：不安症(パニック症・社交不安症、過換気症候群など) 不安症/不安症群(パニック症、社交不安症、全般不安症など)、過換気症候群について、症候、診断、疫学的事項、治療(精神療法、薬物療法)、医療行動科学を説明できる。(2-1、2-3～2-4、3-1～3-4、3-6、4-1～4-4)	竹島 正浩	第二病棟 2 階多目的室
14	4月21日 (月)	7-8 時限	講義	テーマ：身体症状症、病気不安症(心身症を含む) 不身体症状症および関連症群(身体症状症、病気不安症)、心身症について、症候、診断、疫学的事項、治療(精神療法、薬物療法)、医療行動科学を説明できる。(2-1、2-3～2-4、3-1～3-4、3-6、4-1～4-4)	竹島 正浩	第二病棟 2 階多目的室
15	4月21日 (月)	9-10 時限	講義	テーマ：強迫症/解離症 強迫症および関連症群と解離症群(解離性同一症、解離性健忘、離人感・現実感消失症など)について、症候、診断、疫学、治療(精神療法、薬物療法)、医療行動科学を説明できる。(2-1、2-3～2-4、3-1～3-4、3-6、4-1～4-4)	竹島 正浩	第二病棟 2 階多目的室
16	4月24日 (木)	5-6 時限	講義	テーマ：うつ病 1 大うつ病および関連障害群について、症候、診断、疫学的事項、治療(精神療法、薬物療法、電気けいれん療法等のその他の治療)を説明できる。(2-1、2-3～2-4、3-1～3-4、4-1～4-4) 精神疾患に関連する自殺について、リスク因子の評価、対応上の注意点を説明できる。(2-1、2-3～2-4、3-5～3-6)	吉沢 和久	第二病棟 2 階多目的室

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
17	4月24日 (木)	7-8 時限	講義	テーマ：うつ病2 大うつ病および関連障害群について、症候、診断、疫学的事項、治療（精神療法、薬物療法、電気けいれん療法等のその他の治療）を説明できる。(2-1、2-3～2-4、3-1～3-4、4-1～4-4) 精神疾患に関連する自殺について、リスク因子の評価、対応上の注意点を説明できる。(2-1、2-3～2-4、3-5～3-6)	吉沢 和久	第二病棟 2階多目的室
18	4月24日 (木)	9-10 時限	講義	テーマ：双極性障害・気分変調症（産褥期うつ病、月経前不快気分障害を含む） 双極性障害（躁うつ病）、気分変調症および関連障害群（産褥期うつ病、月経前不快気分障害）について、症候、診断、疫学的事項、治療（精神療法、薬物療法）を説明できる。(2-1、2-3～2-4、3-1～3-4、4-1～4-4)	吉沢 和久	第二病棟 2階多目的室
19	4月28日 (月)	5-6 時限	講義	テーマ：リエゾン精神医学・せん妄/精神腫瘍学・緩和ケア コンサルテーション・リエゾン精神医学を理解し、せん妄や抑うつ反応などリエゾン精神医学の対象になる精神疾患について、症候、診断、疫学的事項、治療（精神療法、薬物療法など）を説明できる。(3-1～3-4、4-1～4-4) リエゾン精神医学の診療においてチーム医療の重要性を理解し、他職種、地域との連携について概説できる。(2-6、4-7～4-8) 精神腫瘍学（サイコロジ）と緩和ケアについて、症候、診断、疫学的事項、治療（精神療法、薬物療法など）を説明できる。(3-1～3-4、4-1～4-4) がん患者・家族と良好な信頼関係を構築し、患者・家族の適切な心のケアについて説明できる。(2-1～2-3、2-7、3-3～3-4、4-1～4-4) 緩和ケアの診療においてチーム医療の重要性を理解し、他職種、地域との連携について概説できる。(2-6、4-7～4-8)	入中 啓輔	第二病棟 2階多目的室
20	4月28日 (月)	7-8 時限	講義	テーマ：症状性精神障害（化学物質中毒を含む） 主要な症状性精神障害の症候、身体所見、鑑別診断と治療法を説明できる。(3-1～3-3) 症状性精神障害の病因となりうる、感染症や内分泌疾患、代謝性障害、膠原病、化学物質中毒、医原性精神障害について、臨床特徴や診断方法、治療法について説明できる。(4-2～4-4)	小笠原正弥	第二病棟 2階多目的室
21	4月28日 (月)	9-10 時限	講義	テーマ：物質関連障害および嗜癖性障害（物質使用、アルコール、ギャンブル、ゲーム） アルコール使用障害などの物質関連障害および嗜癖性障害、ギャンブル障害などの非物質関連障害について、症候、診断、疫学、治療（精神療法、薬物療法）、医療行動科学を説明できる。(2-1、2-3～2-4、3-1～3-4、3-6、4-1～4-4)	小笠原正弥	第二病棟 2階多目的室

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
22	4月30日 (水)	5-6 時限	講義	テーマ：認知症／器質性精神障害 1 認知症／器質性精神障害の疾患概念、特徴について説明できる。(3-1～3-3) 主な認知症疾患 (アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症) について、症状 (中核症状・周辺症状)、疫学、病理学的特徴、検査所見 (HDS-R・MMSE などの心理検査、頭部 CT・MRI・SPECT などの画像検査)、治療 (薬物療法、非薬物療法) について説明できる。(3-1～3-4) 認知症を取り巻く社会の現状、我が国の認知症施策、他職種連携による地域での支援の枠組みについて説明できる。(1-2、2-2、2-6、3-7)	工藤 瑞樹	第二病棟 2 階多目的室
23	4月30日 (水)	7-8 時限	講義	テーマ：認知症／器質性精神障害 2 認知症／器質性精神障害の疾患概念、特徴について説明できる。(3-1～3-3) 主な認知症疾患 (アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症) について、症状 (中核症状・周辺症状)、疫学、病理学的特徴、検査所見 (HDS-R・MMSE などの心理検査、頭部 CT・MRI・SPECT などの画像検査)、治療 (薬物療法、非薬物療法) について説明できる。(3-1～3-4) 認知症を取り巻く社会の現状、我が国の認知症施策、他職種連携による地域での支援の枠組みについて説明できる。(1-2、2-2、2-6、3-7)	工藤 瑞樹	第二病棟 2 階多目的室
24	4月30日 (水)	9-10 時限	講義	テーマ：てんかん及び関連精神障害 てんかんおよび関連障害群について、疫学、症候、発作型 (全般発作、単純部分発作、複雑部分発作、二次性全般化発作) を説明できる。(3-1～3-4、4-1)	竹島 正浩	第二病棟 2 階多目的室
25	5月1日 (木)	5-6 時限	講義	テーマ：睡眠・覚醒障害 1 日本における睡眠習慣の問題 (睡眠不足、夜型生活、交代勤務および社会に与える影響) を理解する。各種の睡眠-覚醒障害 (不眠症、睡眠関連呼吸障害、過眠症、レム睡眠行動障害など) について症候、診断、疫学的事項、治療 (薬物療法および非薬物療法など) を説明できる。主な睡眠薬、覚醒刺激薬の作用機序、依存性、適正使用について説明できる。(3-1～3-4、3-7、4-1～4-4)	三島 和夫	第二病棟 2 階多目的室
26	5月1日 (木)	7-8 時限	講義	テーマ：睡眠・覚醒障害 2 日本における睡眠習慣の問題 (睡眠不足、夜型生活、交代勤務および社会に与える影響) を理解する。各種の睡眠-覚醒障害 (不眠症、睡眠関連呼吸障害、過眠症、レム睡眠行動障害など) について症候、診断、疫学的事項、治療 (薬物療法および非薬物療法など) を説明できる。主な睡眠薬、覚醒刺激薬の作用機序、依存性、適正使用について説明できる。(3-1～3-4、3-7、4-1～4-4)	三島 和夫	第二病棟 2 階多目的室
27	5月1日 (木)	9-10 時限	講義	テーマ：人格障害／性行動異常、性別違和 性格・人格の基本類型を説明できる。人格障害について、症候、類型化 (古典的分類、クラスター分類)、診断、疫学、治療 (精神療法、薬物療法) を理解する。性別違和について、症候、診断、疫学、治療 (精神療法、薬物療法、性別適合手術) を理解する。性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律について理解する。(3-1～3-4、3-7、4-1～4-4)	三島 和夫	第二病棟 2 階多目的室

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
28	5月8日 (木)	5-6 時限	講義	テーマ：摂食障害 摂食障害の症候、各病型(摂食制限型、過食・排出型)の特徴、器質的疾患の除外を含めた診断、疫学的事項、治療(栄養療法、精神療法、薬物療法)を説明できる。(3-1～3-4、4-1～4-4) またその心理的背景と診察上の留意点を概説できる。(2-1～2-3)	馬越 秋瀬	第二病棟 2階多目的室
29	5月8日 (木)	7-8 時限	講義	テーマ：司法精神医学 (心神喪失者等医療観察法の適用場面) 心神喪失者等医療観察法の目的や仕組み、対象となる重大な他害行為を説明できる。(3-5、3-7、4-3) 成年後見法の目的、3類型(後見、保佐、補助)を説明できる。(3-5、3-7、4-3) 同意能力の判断基準やインフォームド・コンセント、共同意思決定について説明できる。(1-1～1-2、2-1～2-2、2-4、2-7、3-5)	竹島 正浩	第二病棟 2階多目的室
30	5月8日 (木)	9-10 時限	講義	テーマ：精神機能評価法・心理検査法 知能検査(Wechsler 式)、人格検査における質問紙法(Minnesota 多面人格目録)および投射法(ロールシャッハ・テスト)、神経心理検査(記憶検査、前頭葉機能検査)等の心理検査法を説明できる。神経発達症のアセスメントに用いられる心理検査法を理解する。(3-3、4-2～4-3、4-7)	渡邊真由美	第二病棟 2階多目的室
31	5月15日 (木)	5-6 時限	講義	テーマ：精神科薬物療法・身体療法 1 主要な向精神薬(抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬・睡眠薬、ADHD 治療薬、抗認知症薬、抗てんかん薬など)の適応疾患と薬理学的特性(作用機序、効果、副作用など)を理解し、精神科薬物療法の基本を説明できる。修正型電気けいれん療法、高照度光療法、経頭蓋磁気刺激療法の適応疾患と作用機序、効果、副作用について理解する。(3-1～3-3、4-6)	三島 和夫	第二病棟 2階多目的室
32	5月15日 (木)	7-8 時限	講義	テーマ：精神科薬物療法・身体療法 2 主要な向精神薬(抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬・睡眠薬、ADHD 治療薬、抗認知症薬、抗てんかん薬など)の適応疾患と薬理学的特性(作用機序、効果、副作用など)を理解し、精神科薬物療法の基本を説明できる。修正型電気けいれん療法、高照度光療法、経頭蓋磁気刺激療法の適応疾患と作用機序、効果、副作用について理解する。(3-1～3-3、4-6)	三島 和夫	第二病棟 2階多目的室
33	5月15日 (木)	9-10 時限	形成評価	テーマ：医師国家試験問題解説 講義内容を振り返り、医師国家試験の問題解説を通して医学知識を定着させることを目的とする。(3-1～3-4、4-1～4-4)	小笠原正弥	第二病棟 2階多目的室